

報告書抄録

ふりがな	まつぎひろたいせき-だい5・6・7じちようさ- いよこくぶんじあと-だい5じちようさ- わきなかやいせき こいずみすみたいせき-だい4じちようさ- のぼりばたいせき-だい3じちようさ- かみとくかたたいせき
書名	松木広田遺跡-第5・6・7次調査- 伊予国分寺跡-第5次調査- 脇中屋遺跡 小泉角田遺跡-第4次調査- 登畑遺跡-第3次調査- 上徳堅田遺跡
副書名	-平成21年度 個人住宅建設に伴う発掘調査報告書-
巻次	
シリーズ名	今治市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第105集
編集者名	田坂嘉則 小野倫良 白石 聡 櫛部大作 丸毛のぞみ
編集機関	今治市教育委員会
所在地	〒794 - 0028 愛媛県今治市北宝来町1-1-16 電話 0898 - 36 - 1608
発行年月日	西暦2011年3月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
まつぎひろたいせき 松木広田遺跡 第5次調査	いまばりしまつぎ 今治市松木252-7	38202		34° 02' 04"	133° 00' 24"	20090427	3.75㎡	個人住宅建設 (浄化槽)
まつぎひろたいせき 松木広田遺跡 第6次調査	いまばりしまつぎ 今治市松木252-8	38202		34° 02' 03"	133° 00' 23"	20090902	3.75㎡	個人住宅建設 (浄化槽)
まつぎひろたいせき 松木広田遺跡 第7次調査	いまばりしまつぎ 今治市松木252-1	38202		34° 02' 03"	133° 00' 22"	20090928) 20090929	3.75㎡	個人住宅建設 (浄化槽)
いよこくぶんじあと 伊予国分寺跡 第5次調査	いまばりしこくぶ 今治市国分4丁目679	38202		34° 01' 33"	133° 01' 37"	20090525) 20090529	9㎡	個人住宅建設 (浄化槽)
わきなかやいせき 脇中屋遺跡	いまばりしおおにしちようわき 今治市大西町脇甲127-3	38202		34° 03' 04"	132° 55' 04"	20090702) 20090703	7.2㎡	個人住宅建設 (浄化槽)
こいずみすみたいせき 小泉角田遺跡 第4次調査	いまばりしこいずみ 今治市小泉3丁目463-9	38202		34° 02' 57"	132° 58' 44"	20091104) 20091112	5㎡	個人住宅建設 (基礎杭)
のぼりばたいせき 登畑遺跡 第3次調査	いまばりしのぼりばた 今治市登畑甲131-1	38202		34° 01' 12"	133° 01' 03"	20091207) 20091208	12㎡	個人住宅建設 (擁壁・浄化槽)
かみとくかたたいせき 上徳堅田遺跡	いまばりかみとく 今治市上徳乙228-3	38202		34° 02' 22"	133° 00' 54"	20100202) 20100205	46㎡	個人住宅建設 (擁壁・浄化槽)

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
松木広田遺跡	集落跡	弥生時代後期後半 ～古墳時代初頭	堅穴住居、土坑 ピット	弥生土器、古式土師器	松木広田遺跡の集落域北東部と考えられる。 製塩土器が出土した。
伊予国分寺跡	寺院	古代 中世	溝、ピット	布目瓦、土師質土器、 須恵器、陶磁器	
脇中屋遺跡	集落跡	弥生時代後期 古墳時代中期	溝、土坑、ピット	弥生土器、須恵器、 土師器	
小泉角田遺跡	集落跡	弥生時代中期	土坑、ピット	弥生土器、サヌカイト	
登畑遺跡	集落跡	中世	ピット	鉄滓	
上徳堅田遺跡	集落跡	弥生時代後期後半 ～古墳時代初頭	溝、土坑、ピット	弥生土器、古式土師器	

要 約	<p>松木広田遺跡は、弥生時代後期後半から古墳時代前期前半を中心とする今治平野の拠点的な集落である。今回の第5～7次調査区は、集落の中心部から遠く、遺構遺物が希薄になりつつある集落域の北部であると考えられた。</p> <p>伊予国分寺跡は、古代に創建された伊予国分寺の跡地である。塔跡の存在から旧寺域はこの地と考えられている。5次にわたる調査によっても未だ伽藍配置は把握できず。なお、現在の伊予国分寺は西側の丘陵上に位置する。</p> <p>脇中屋遺跡は、狭小な調査範囲であったため遺跡の性格等詳細は不明。弥生時代の終わりから古墳時代にかけての集落跡と考えられ、多くの製塩土器が出土したことが注目される。</p> <p>小泉角田遺跡は、蒼社川左岸に位置する弥生時代の集落跡である。今回の調査は狭小な調査範囲であったため遺跡の性格等詳細は不明であるが、周囲と同様の遺跡の広がり確認できた。</p> <p>登畑遺跡は、中世を中心とする集落遺跡であるが、生産的要素を含む遺物や遺構が周辺で確認されていることから生産的遺跡的な性格の強い遺跡の一部と考えられる。</p> <p>上徳堅田遺跡は、弥生時代終末から古墳時代初頭を中心とする遺構が確認された。松木広田遺跡よりも海岸部に近く、上徳上胡遺跡に隣接することから、同時期の遺跡が周辺に点在していると考えられる。</p>
-----	--